

クリティカルシンキングとコミュニケーション行動

—中学生のパネルデータにおける因果分析の検討—

○池田まさみ¹・安藤玲子²・宮本 康司³ (非会員)

(¹お茶の水女子大学人間発達教育研究センター・²金城学院大学人間科学部・³東京家政大学家政学部)

キーワード: クリティカルシンキング、コミュニケーション、パネル調査

Critical thinking of junior high school students: causal relationships between critical thinking and communicative behavior.

Masami IKEDA¹, Reiko ANDO² and Koji MIYAMOTO^{3#}

(¹Ochanomizu Univ., ²Kinjo Gakuin Univ., ³Tokyo Kasei Univ.)

Key words: critical thinking, communication, panel research

目 的

クリティカルシンキングは、高度情報化社会において人々がスムーズかつ豊かなコミュニケーションを実現するうえで欠かせない複眼的思考である。単に論理力などの個人的能力だけでなく、人間関係や社会性に関わる対人的能力も含まれる。しかし、クリティカルシンキングの育成は日本の初等・中等教育ではあまり進んでいないのが現状である。本研究では 2009 年度から縦断的に実施してきた「中学生のクリティカルシンキング授業」(池田・安藤, 2010) におけるパネル調査に基づいて、クリティカルシンキングとコミュニケーション行動との因果関係を分析し、その知見をクリティカルシンキングの教授法や教材開発などに役立てることがねらいである。

方 法

調査対象と調査時期 2009 年 6 月と 11 月に関東地方の公立中学校 1 年生 118 名 (男子:63 名、女子:55 名) を対象に、授業時に一斉法による 2 波のパネル調査を実施した。

調査内容

クリティカルシンキング尺度 池田・安藤 (2010) の作成した中学生用のクリティカルシンキング尺度を使用した。因子分析では、「探究心 (11 項目 $\alpha=.90$)」、「客観的判断 (5 項目、 $\alpha=.79$)」、「多様性の許容(5 項目、 $\alpha=.83$)」、「証拠の重視 (2 項目、 $\alpha=.66$)」の 4 因子 (23 項目) が抽出されている。

コミュニケーション行動

廣岡ら (2007) の「小学生用のコミュニケーション能力の評定」22項目を中学生のコミュニケーション行動の指標とした。廣岡らの評定では、7つのスキル(話す、聞く、協力、応答性、調整、頼む、断る)について評定者が生徒の行動を評価するものであったが、本研究では生徒自身に、各項目について「4:よくあてはまる」から「1:まったくあてはまらない」までの 4 件法で回答を求めた。

因子分析の結果、3 因子 (17項目) が抽出され、それぞれ、「議論への積極的な参加(7項目 $\alpha=.82$)」、「対話での他者配慮(7項目 $\alpha=.81$)」、「論理的な依頼(3項目 $\alpha=.78$)」と命名した。

結果と考察

交差遅れモデルによる因果分析

クリティカルシンキングとコミュニケーション行動の因果関係を検討するため、構造方程式モデリング(SEM)によって 2 波のパネルデータを分析した (Fig.1)。図中のパス a は調査

1 時点目でのクリティカルシンキングの各因子が、2 時点目のコミュニケーション行動の各因子に与える影響関係を示し、パス b はその逆の影響関係を示す。分析では、各時点での両変数間の共分散 ($r1$, $r2$) に関し、飽和モデルと変数間に順番に無相関を設定した 3 モデルを比較し、適合指標からデータとの当てはまりが最も良いモデルを選んだ。

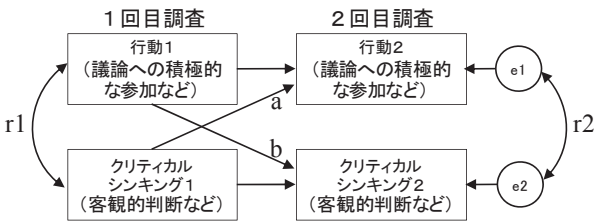


Figure 1 交差遅れ効果モデル

クリティカルシンキングとコミュニケーション行動

分析の結果をTable1に示す。まず、クリティカルシンキングにおける「探究心」は、コミュニケーション行動全般を高めることが示された (因果係数.29~.50)。また、探究心では、「対話での他者配慮」と「論理的な依頼」において双方向でポジティブな因果関係が示され、その影響力は相乗的に高まることが示唆された。同様に、思考と行動のいくつかの因子間にも双方向でポジティブな影響が確認された。特に、「論理的な依頼」は思考全般との相乗効果により高まる可能性が示された。さらに、「対話での他者配慮」や「議論への積極的な参加」では行動から思考へ逆方向のみの因果関係も見られた。

総じて、円滑なコミュニケーション行動にはクリティカルシンキングに関わる多面的な能力の育成が必須であると同時に、その思考もまた具体的かつ体験的なコミュニケーション行動を通して育成、強化していくことが重要だと言える。

今後さらに、学習動機などの観点も含めて、クリティカルシンキング育成のプロセスをより詳細に検討する必要がある。

引用文献

安藤玲子・池田まさみ (2010) クリティカルシンキングの育成(2) —中学生用尺度の開発— 日本心理学会第 74 回大会論文集, 1190.
廣岡秀一・他 (2007) 小学生のコミュニケーション能力に対する Performance Assessment(2): 活動プログラム(Task)と評価基準 (Rubric)の開発.三重大学教育学部研究紀要(教育科学), 58, 203-214.

Table 1 クリティカルシンキングとコミュニケーション行動との因果関係

	コミュニケーション行動					
	議論への積極的な参加		対話での他者配慮		論理的な依頼	
	パス a	パス b	パス a	パス b	パス a	パス b
クリティカルシンキング						
探究心	.429***		.294***	.153*	.504***	.144*
客観的な判断	.242**	.289***		.296***	.234*	.266**
多様性の許容	.246**	.281**		.300***	.301***	.301***
証拠の重視		.332***		.261***	.311***	.270**

注: 表中の数値は標準化偏回帰係数である。有意な効果がみられた値のみを示す。*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$